

平成 29 年度 第 2 回伊豆市教育振興審議会会議録

開催日時 平成 29 年 10 月 11 日（水）午後 7 時 30 分～午後 9 時 25 分

開催場所 伊豆市役所 別館 2F 大会議室

出席委員 菊地篤子会長、勝呂義衛副会長、澤木育子委員、鈴木和仁委員、鈴木浩二委員、鈴木洋一委員、金子歩美委員、石井美香委員、井澤彩香委員、原勝也委員、鈴木千秋委員、藤江康彦臨時委員、菊池之利臨時委員【13 名】

欠席委員 小笠原茂委員【1 名】

事務局 西井教育長、金刺教育部長、菊地統括監、城所教育総務課長、若月指導主事、鈴木主任

1 開会

ただいまより第 2 回伊豆市教育振興審議会を開会いたします。

2 会長挨拶

前回の審議会で緊張したことの無い緊張感を強いられたのではないかと思います。公開であったのでそのようになったと思うが、丁寧に審議していかなければいけないと改めて考えている。今回の次第を見ていただければわかると思うが、学校がどのような機関であるのかを改めて学び直すチャンスなのではないかと考えている。私たちは今この年齢で生きているということは学校教育を受けているので知っているつもりであって中身をどのくらい知っているのかということとは少し違うと思った。今現在のそれぞれの立場から把握して、その中で子どもを育てる望ましい形を見いだせたらいいのではないかと願っている。

3 確認・報告事項

(1) 国が目指す中学校のあり方について（事務局）

資料 1・2 に沿って説明

小学校は平成 32 年度、中学校は平成 33 年度に学習指導要領が改訂となる。来年度からは改訂に向けての移行の時期となる。

(2) 委員事前アンケートの報告

資料 3 に沿って説明

4 協議

(1) 3 中学校の教育の課題の把握について

① 見学目的と見学方法について

会長

それぞれの方がそれぞれの課題を持っているので、見学したいことが違っていたり同じであったりしていると思われる。おそらく見学の目的を全てやることはないと思うが学校の方はどのような受け入れ態勢となっているのか。

事務局

事務局の中では皆さんにいただいた内容について可能であれば委員の方々に見たい内容、希望日についてのアンケートをお願いしたいと思っている。その結果を基に学校と協議し、次回の審議会までに候補日を何日かあげさせていただきたいと思っている。部活動については、平日の夕方、土曜日を想定している。

会長

何について見ましょうという統一課題は持たず、すべてに興味があって見てみたいというのであれば、なるべく多く参加してもらおう。次回の審議会までにとということなので、11月下旬までに見学という案ですがどうか。

委員

各自でいくのか。

事務局

できれば候補日を何日か絞って、複数の方が纏まっていけるように学校と調整を図っていきたいと考えている。個別での見学というのは考えていない。部活動の様子、施設の状況、授業内容、通学状況の見学希望が多かったのも、そのようなことの見学が中心になると思う。

会長

委員アンケートと資料で矛盾が生じている。部活動の様子を見たいという希望が多かったが、部活動は法的には実施を義務付けていないとなっている。それでも運営されているものなので見学はありだが、それで是非は決まらないことを認識した上での見学になるのではないかと思う。

委員

何故、見に行くのかというところが大切なところで、前提となることは第二次再編計画で土肥地区は小中一貫校、修善寺、天城、中伊豆は中学校統合という方向できている。それに至ったのは、審議会があって決めてきたことだと思う。ここでやることは三中学校を統合か、土肥と同じように義務教育学校にするのか、それとも今のままかということ。それを判断するのにその中で一番よりベターなのは、どういう形態がいいのかということ部活動の状況や先生の授業の様子などを見て、校舎が老朽化してどうかということを見て最終的にどのような中学校の形態がいいのかを出すことだと思う。

委員

それぞれメリット、デメリットがある。課題を解決していくための方策を見通した感じで見えていくと、より見方がよくなるのではないか。

会長

アンケートの中にあるが統合ありきで進めるべきではない、三校を同じようにみ

る必要があるということが前提にある。この段階で意見を集約することが必要だとするならば見学の日程は来月までは厳しいと思う。

委員

見通しをもってやっていかないと、ただ見るだけになってしまう。自分が見た中で課題を解決する方法を考えてもらわないと、漠然と見ただけでは今後の見通しとして課題を解決していくことにはならないので、いろいろなことを想定した中で自分の見方を考えてもらう。

会長

統一意見ではなく自分の中で課題意識を持つということが必要ということで、それがあれば見学に行った際に質問をすることができる。

委員

課題意識を持って行くことは大切なことだが、現状を知るために行くということになると、学校の先生から学校の運営の話を聞きたい。前回の時に授業を見てもわからないという話が出たがその通りだと思った。学校の現状を知るのに校長から話を聞かないとわからないと思う。先ほど委員が各自バラバラに行くのか聞いた理由は、そうすると校長が対応しきれないと思ったため。

会長

委員アンケートの②の意見集約について、イ教員というところで校長先生から話を聞きたいと思っていた。校長先生から話を聞く必要があると思うので、見学とは別で進めていっていただきたい案件として、この後進めていきたい。とりあえず見学の流れをお願いしたい。

部長

次回の審議会に3校の校長先生にお越しいただき、直に話を聞いていただく。その前に皆様に現地をみていただき、課題を確認した上で校長先生からお話を聞いていただくというのも一つの案です。

会長

決めなければいけない期日も、子どもの育ちもあると思うが、いろいろと同時進行になると思う。その中で順番を決めてやっていくというよりも、校長先生の話聞く機会を想定しつつ、見学を同時に進めていく。頭の中を整理整頓しながら、いろいろなものを重ね合わせて、進めてゆけば良いのではないか。

委員

天城中学校と天城小学校の学校評議員を兼ねており、何か月に1度かはいろいろな意味で学校見学をしている。校長先生が学校目標に向かって学校が進んでいる姿を見学させていただくことは必要だと思うが、今伊豆市の中学校が置かれている現状は施設であったり、子どもたちが置かれている教育環境全体に関わることもあるということ認識していかないといけないと思う。それでいてこれをどのように進めていくかは難しいところで、いろいろな角度から見なければならぬというそれくらい大切な審議会であると思う。

委員

見学に行って、それぞれ見るものも違うが誰かが案内をしてくれるのか。校長先生が案内をしてくれるのであれば、そこでそれぞれが校長先生に話を聞けばいいのではないか。

事務局

施設全般についての状況、生徒の生活の様子、部活動の様子がある程度わかる先生に案内をお願いする予定。時間については1時間程度を考えている。

会長

それぞれが校長先生に話を聞けばいいという意見が出たが、それで済むといえど済むが、それは審議会場ではないので、審議会とは言い切れないし、全員が参加していることにはならないので、共通理解になったと言えるかどうかという問題がある。

委員

見学のテーマを決めて、部活動、施設など老朽化の部分も含め、校長先生が是非ここを見て欲しいというところを見ないとわからない。

会長

校長若しくは管理職の先生から聞けば大丈夫。①の見学目的と見学方法についてを本日の最後に確実に決めるということで、②意見集約についてのア保護者アンケートの説明をお願いしたい。

②意見集約

ア保護者アンケート

事務局

資料4に沿って説明。

会長

若干論点が違うような気がする。新中学校建設ということを私たちは議題にしていけないので、これが全くそのままということではないということ認識しつつ、現存で良いという意見は少ない印象がある。

委員

回答率が少ない感じがする。これだけ重要なことを、将来の子どものことを聞いているのに、回答しなかったのかということが推察できない部分がある。②の今のまま残すことに賛成するということで、修善寺中学を使用したらどうかという意見が少ないが出ている。今のままの体制ではなく修善寺に集めたらどうかという考えを持っている方がいる。新中学校建設にはお金がかかるから反対だが、中学校を今のままにしておくのでは、学校としての機能、子どもたちの教育環境が整わないということは、みなさんが思っているのではないかと思う。

委員

アンケートは否決される前に出しているのに、今少し論点がずれているという話だが、このアンケートを出すにあたっての理由があった訳であるが、それを理解して読み込まないと、ただこれがこうだから論点がずれているというのはどうか。反対だという議員が当選したということは、議員を選んだ私たち市民の意識が低い。

その意識をもう少し改革していかないと、もう少し市の動きがよければ違っていたのではないか。このアンケートは前年度の市P連が主体となっている。反対勢力の人がたくさん受かってしまったというところから始まっている。選ぶ側も考えられるような情報をしっかりと意識をつけていかないと、いくら私達が真剣に話し合ったとしても、どうせ同じでしょ、という意見が出ている。アンケートにあったが、ここまで保護者は賛成しているのに何故ということになってくる。現状を知ることでも大切だが、現状をみんなに知らせて、今の現状のままではやっていけないという事をよく理解してもらうのが一番最初にやるべきことで、この会が何を求められているのか目指す姿をどこにするのか明確にしていかなないと、話がなんといいのかわからない。このアンケートは否決前のアンケートなので、統合ありきでいた人達もいた中で、統合するんでしょというイメージで出している人もいる。ただ単にずれているというのはどうか。

委員

新中学校建設に関するアンケートの論点がずれているかという、それほどずれているとは思わない。子ども達にとって良い教育をするためにはどうしたらいいか、どういう質の教育をしたらいいかの中で出てきたのが新中学校で、そのアンケートなので完全に論点がずれているとは言い切れない。回答率がこれくらいというのは自主的な返信でやっているもので、低いといってもこれくらいのものかと思う。決めかねていた人もあったと思う。

委員

中学校建設についての傾向を示していると思う。建設ということで尋ねているので、統合はどうかということと新しく中学校を建てるという二つの事がある。残すことに賛成するということで修善寺中学校を使えばいい、けれども統合は必要ということなので、そういう意味では論点がずれている。アンケートを取った時期が前なので、これだけを根拠資料にするのはどうか。回答率は低いと思う。回答を躊躇している人もいたと思うが、回答をしていない600名くらいの人達はどちらでもいいになってしまうが、それは問題である。自主的な回答であったということだが、もう少し働き掛けをする必要があったのではと思う。

会長

資料としては参考資料ということで保護者アンケートを見ていただきたい。これも含めて教員側からの意見集約ということで、次回3中学校の校長先生に来ていただいて話をきく。

(2) 学校規模によるメリット・デメリットについて

事務局

資料5-1・5-2に沿って説明

会長

資料5-2で中学校規模の標準が12~18クラスと書いてあり、伊豆市の学校で大規模な学校は既がないということであり、小規模の中でも更に極小に近い規模の小規模という中で話を進めていかなければならない現実であるということ。可能な限

り規模を適正に寄せる必要があるということは学校教育の中にはあると既に書かれているので、努力義務である。

委員

中学校の保護者をしていて、メリットの②と③にあるように意見や感想を発表できる機会が多くなったりはするが、人間関係が保育園から中学校3年までずっと同じメンバーにいるため、子どもたちは自分のポジションを作っている。体育祭や音楽発表会を見にいてもリーダーをやっているのは、昔から同じ子。中学校の先生は機会を与えてくれるが、子ども達は10年以上も同じメンバーの中にいたら、私はこの位置、このことはこの子がやるからというふうに決めてしまっている。

会長

それは学習面でもあり、生活面でもあるということで、生活の中でもポジションが決められているのか。

委員

周りの保護者もそのように言っている。

委員

中学生の目線で考えることしかできないと思う。子ども達が何を望んでいるのか一番最初に確かめないと何をしたいのかわからない。

会長

なかなか見えやすそうで見えにくい現場なのかなと思う。時代によって学校の姿は違うと思うし、自分が過ごしていた学校とも違うし地域によっても違うので、そのような意味でも今のような意見は貴重。

委員

修善寺中学校の運動会を見に行った。市の中では一番大きいので元気よくやっていたが、寂しいと感じた。私が中学校にいた頃には、旧の修善寺町なので温泉場と熊坂地区だけであったが500名いた。今は360人くらいしかいない。それを見た時に天城と中伊豆はどんな運動会なのだろうと思った。寂しいだろうなというのが第一印象であった。やはり統合してやらないと伊豆市の宝物を失ってしまうと思う。

会長

見えるものは意識されやすい、量や数は見えやすいが、教育の質や人の内面はすごく見えにくい。子どもの内面は保護者が一番わかっていると思う。学校の先生もそうだと思うが保護者が一番わかっていると思う。教育の質のメリット、デメリットについて意見をいただきたい。次回校長先生から話をいただけたらと思うが、質というものをわかっていかないと数、量、経年数などそういうものとは違う教育の質について、例えば免外の教員のことであるとか、一つの教科の先生が一つの学校に一人しかいないことがどのようなデメリットになるのかは、おそらく外の人からはわからない。

委員

そのことについては、言いにくいと思う。学校評議員として実際に中学校を見に行く時にはいつも社会の専門の先生は必ず社会の教科をやっている。皆さんが見学

に行くとき、中学校側はそうしてくれると思う。満たしているか満たしていないかというところになる。教育の質は環境を整えたりするのは私達にできることであるが、中のことその先生の器量とか、子ども達に魅力的な授業をやっているかどうかは、見学に行っても見えてこないと思う。

会長

そこを言っているのではない。

委員

中学校に行くとき専門性が高い。専門である教科を専門外の人から教えることがある。美術の場合、小規模な学校だと授業数が少ないので技術など他の教科も教えないとならない。免許を持っていないのに、教えるのはおかしい。非常勤職員がこんなに多くないとやっていけないというのはおかしい。

委員

市単独で教科を教える先生を雇ってもらっている。11クラス以上の学校には、県から免許外の先生が派遣されない。人数が少なくなってくると教科の人数にアンバランスが生じる。一人しかいない教科となると授業に行きっぱなしになり担任が持てない。市で先生を雇って、免外担当を減らす努力はしてくれている。免許更新制度もありその先生達を継続して安定的に雇っていくのは現場としては難しい。

委員

学校は非常勤ではなく常勤の先生が欲しい。非常勤は一年契約で、研修もない。

会長

義務教育は教育の基本。親は子どもにいい教育を受けさせたいと思っているはずなので、塾に行かせたりもするが、それさえ難しい地域もある。その場合に学校教育が整っていなかったら、どうすればよいのかということを知りたい。学校教育が充実するのは地方だからこそ強く思っている。その中で必死に先生方が専門の先生を確保している状況があるということを知って、それを何とかする手はないのか一つの議題に考えて繋げていただきたい。

委員

子どもの発達段階において、中学生が感受性が一番鋭くなって、独り立ちしようというような子どもが多い。中学校というのは一つの社会であると思う。集団が自治能力を持ったり、自浄能力を持たせるために先生方は頑張っているということもある。そのようなことを考えると小さな集団ではそのような状況はできない。ある程度の集団が必要ではないかとすごく感じる。人間関係がうまくいかない時に教師として学校側としては、クラスを替えを考えたりするが、1～2クラスでは難しい。3～4クラスないと教育環境としてよくない。そのくらいの規模がないとこれからますます難しい。

会長

18歳以上の大人と接している中で15歳までに育ててほしいと思うところはどこか。学生をみている中で、もう少し基礎の義務教育を終わる段階でこういうことまでは育ててほしいと思うところを知りたい。

委員

人間関係を築く力や、他者に自分の意見をいえる力、粘り強く一人でじっくり考え、周りの人を上手く使いながら物事を解決していく力をつけていく。

会長

幼稚園教育要領、その後小学校・中学校学習指導要領へと続いていく。文科省が出しているものは、0歳から成人するまで大学生までという長いスパンで物事を捉えて計画策定中。中学校はその真ん中から後半に差し掛かかるところで12歳から15歳は、義務教育の最終地点であり、その後高等教育に行く人もあれば、就職する人もいる、社会人になる人もいる。様々な中で15歳の終わりの時点でここまでは育っていなければならぬということ認識したうえで、その人達が生活する場所は何なのか考えたいと個人的に思っている。社会性というものは、社会性の発達図というものがあり、最初は家族、そして地域、学校と徐々に広がっていくということが随分前から言われている。その中で徐々に広がっていかなければいけないのに、保育所から15歳までが止まっている。あとを広げるのは自力ということになっている状況に伊豆市はあると思う。それを継続していくことになると、育っていくべきものを阻む可能性があると思う。

委員

高校生をドロップアウトした子に話をきくと、仲のいい子が私と違う高校に行ってしまった。そっちの子はそっちの学校で友達がいる。なんとなく自分が一人になってしまった気になって学校に行かない、行きたくない、友達もいないしということでドロップアウトしたということが結構ある。そういう意味でいうと大きい中で人間関係を築かしてあげた方がいいのかと思うが、小学校からのいじめが原因で違う中学校に通っている子もいる。その保護者と話をすると一緒にされたら困ると言っていた。そのように両局面があるということを理解しながらいかないといけない。個人的な意見としては大きい方がいいと思う。少人数だから子どものことがよく分かるということが書かれているが、子どもに聞くと先生も気づいてくれなかったと言っていた。

会長

少人数だと1対何人というふうに数は小さくなるが、だからといって目が行き届かないこともあって、前回先生方の業務のいかに分掌が多いかという資料が出ていたので、気づきたくても気づけない状況が発生していたのではないかなと思う。

委員

保護者アンケートを出したが回答率が低いということが出ている。私の周りでも出していない人がいて、出さない理由を聞いたらまだ保育園3～4歳なので中学校のことが想像つかないからどういうふうに書いたらいいのかわからない。自分の子どもに関わることなので想像して書いて貰いたかったが、想像がつかなくて答えが出せず出さなかったということを知った。

会長

子どもの年齢によって意識が違うのは当然だと思う。

委員

いろいろな意見を聞いていて小規模校だとメリットもあるしデメリットもある。規模の適正化ということを考えると、先生方の免許外のことを考えたり、子どもたちの切磋琢磨を考えたりすると、ある程度の規模が欲しい。そういった意味で解決する方法としては、中学校を統合する方法もあるし、土肥のように小中一貫校という方法もある、或いは別の方法もあるかもしれない。そういった意味でここで議論することは非常に大事なことだが、なかなか難しい課題だと思う。現実問題として、各中学校でこの学校規模ではやっていけない運営できない、学校がつぶれそうで校舎も修理が必要だと、そういう緊迫感があればいろいろな議論も出てくる。アンケート結果を見てわかるように、皆さんの意見が何故今統合しなくてはいけないのかというところまでいっていない。学校が地域からなくなってしまうのが寂しいとかという漠然とした意見もあるし、いろいろな意見がある。一般論として学校の標準化、適正化ということを考えると当然ある程度の規模が必要。教育の質ということを考えると、免許外は困る。専門の先生で全ての子ども達にすばらしい教育を与えたいと願うのは当然のことだと思う。そのようなところで、どこかで緊迫感があるか、どこまで必要性があるか。5年後なのか、10年後なのか、10年後を考えてやらなければならないことなのか。そのようなことを考えるといろいろな要素があるので、何か絞っていかないと議論できないのではないかと思う。

委員

子どもがいないので学校教育は一切わからないが、実際に校長先生から生の声をきいて初めてわかると思う。そういう点では学校に行くのもいいが、校長先生、教頭先生から話を聞くのがいいと思う。野球をやりたいが天城中にないので、修善寺中に行ったという話をきいた。ほかにも野球をやりたいがないので、市外に行ってしまったという話もきいた。中学校にやりたい部活動がないというのは問題。中学校では自分のやりたい部活動ができる環境づくりが必要かと思う。

会長

部活動が前面に出やすいが、部活動はその他の重要事項であって、その他の見えやすい、参加しやすいところだが、そこが気になるところである。緊迫感についてだが、緊迫感があると思っている。建物の問題がある。夏に学校に行った時の劣悪な環境、エアコンがない環境で、建物が建てられた時と気象が違う、夏休みに入る時期が違うということもある。臭いもすごい。子ども達の汗の臭いもすごい。思春期の子どもたちなのでということもあるが、この中で学習ができるのかどうかというほどの施設面。雨漏りがしている学校もあるということを考えると10年後を考えたらだめになっているのではないかという気がした。

委員

子どもが小さいので中学校の再編まで考えるところまでいっていないところがある。天城中出身だが、自分の時代は3クラスあって人数は多くなかったが、少ない人数が私は好きであった。今でもみんな密に仲がいいし、先生は気づかなかったと

しても、友達同士で少人数であったためはっきりと見えていた。3つくっついて大きくするだろうということがあるので、そうなってしまった時に小規模校であった時の良さがなくなってしまうとか、大きくしてしまったら分かれることはまずないので、今も小規模校ならではの大事なところをもっと大事に考えて、最終的にどういうふうになるのかは分からないが、もっと保護者からの意見を多く聞く環境を整えないと、結局こうなったところに立ち入っていくみたいない環境ではないかと思う。私達だけでなく、中学校に通っている、これから中学校に通うお子さんを持つ保護者に意見を聞く場をどうやって作ったらいいのかなど難しい。

会長

井澤さんが中学生だった頃は1学年何クラスだったのか。

委員

3クラス。

会長

今の小規模とは、井澤さんがイメージしている小規模が統合した時の学校の規模というふうに考えてもらいたい。私達が思っているよりも少し先の方のお子さんが中学生になった頃というのは、ただの小規模ではなく、極小規模になっていると思っている。そこまで考えなければならぬ。

委員

そういうふうに思っていない、そういう考えさえつかない保護者は、大きいクラスになるということは、5クラスとか6クラスなるというイメージを持って3校が統合すると思っている保護者が多いと思う。みんながもっと興味を持つような場を作っていければいいと思う。

会長

検討課題として何年後にどうなるという前回見せてもらった資料を具体的に周知する機会が必要かなと思う。これらの意見を踏まえて、どうしようかということになってくるが、まだわからないという方もいて、小規模の良さ、昔の小規模の良さで考えた小規模の良さを話していただいた。ほとんどの皆様からは子どもはある程度人数が整った集団の方が、生活も学習も望ましい姿に近づけるのではないかという意見が出ていた。見学の目的として考えなければいけないのは、方向性を決めたいということが意見としてあるが、いかがだろうか。最初に菊池委員に言っていたように、統合か現状か義務教育学校かという三択といたら変だが、その中で答えを出すというよりも今この考えで見に行くと変わるということもある。最終的に結論を出すのはもっと後だが、今この段階ではある一定の共通認識をもった方がいいという意見を最初にきいたような気がするが、いかがだろうか。

委員

共通認識というのは、という視点を持って見ていただくのはいいと思う。課題を解決するためにはどういう方法があるかな、自分がこの意見をというのではなく、その課題はどういうふうにしたら解決できるかという視点で、課題は皆さんから出ているので、授業、部活動、学校の様子など説明してもらいたい視点を出して、そ

れに則って話をしてもらえばいいかと思う。

会長

いつ見に行くというより、どういう視点で見たいということを私達が出せば、それに応じて答えを用意してもらえるのか。

委員

どういう視点でということだが視点を決めるのは難しいと思う。学校での場面、授業や部活などの時間帯を見ることになる。ここで目的を決めて見るということは、課題意識を持つことになるだろうということ、推進する人はメリットを感じるであろうし、反対する人はデメリットを感じやすくなりやすいので、このようなことを踏まえたうえで、中学校はどうかということそれぞれが意識して見ていていけばいいのではないかと思う。

会長

共通認識ではなく、自己課題を持ってということによいか。今日の議論の中で出てきた課題、自分で出してもらった方もいれば、客観的に聞いていただいた方もいると思うが、それと自分が課題と思った物を擦り合わせて現場に行き、客観的な視点と主体的視点の両方も見学いただくということでいかがだろう。見学の方法については事務局から提案いただくということで、今回は終了にします。

(3) その他

第3回の開催は、11月29日（水）19時15分から別館会議室に決定

5 閉会 午後9時25分